



すべては未来のために 吉村かずや後援会

すべては未来のために目指すもの

- ✓ 地域のつながりを深化させ「孤立のない社会を作る」
- ✓ 「心と身体を育む」まちづくりの実現
- ✓ 「行財政の抜本的見直し」と「産業の発展」

✓「孤立のない社会を作る」

Pickup! 祭りがつなぐ、心と心

2025年4月、岐阜市内の各地で春祭りが行われました。地域の一員として2つの祭りに参加しました。

4月5日「福富団地の春祭り」へ
福富団地の祭りを支える愛友会の一員として、お揃いのTシャツを着た仲間とともに地域に根ざす喜びを感じた一日でした。



翌4月6日は「三輪神社の春祭り」へ
神輿の重みと、沿道からの声援。
このまちのエネルギーと誇りが心に伝わってきました。



✓「産業の発展」

Pickup! 小学生に農業の楽しさを伝える

2025年2月20日、三輪南小学校にて開催された出前授業「ようこそ先輩」に参加しました。

“楽しい・カッコいい”農業を、未来へつなぐ

「三輪の農地は岐阜市を救う」をテーマに、三輪地域の農地の割合（市全体の約18%）や、田んぼの多面的な役割、お米の価格と農業を取り巻く環境について講話しました。

講話後はトラクター乗車体験も実施し、子どもたちに農業の「楽しさ」「カッコよさ」、エールを届ける貴重な機会をいただき、心より感謝申し上げます。



皆さまのご意見をお聞かせください。

いただいたご意見を参考にし、社会に役立つ取り組みへと活かしていきたいと思ひます。

～「地域課題」～

公共交通について

約14年経ち車両2台更新



皆様はどうお考えでしょうか。

岐阜市1/4負担（国1/2+岐阜バス1/4）

国の補助が出る機会貴重ですが、
連節バスよりも小型・オンデマンド交通の方が、今の暮らしに合っていないか？
「ちょっと乗りたい」に叶える移動手段。
本当に必要な交通が、後回しになっていないか見直すべき時です。

吉村かずやプロフィール



岐阜市福富天神前

1986年3月生 39歳

【経歴】

三輪中学校 卒

岐阜三田高等学校 卒

(現:岐阜城北高等学校)

中日本航空専門学校卒

放送大学教養学部 卒

【職歴】

川崎重工2006-2022

三輪南農産入社2023-

【地域活動】

令和5年度、6年度 三輪中学校PTA会長

陸上部活動外部指導者

日本陸連ジュニアコーチ修了

みわスポーツクラブ理事

三輪・藍川献血クラブ幹事

三輪南まちづくり協議会所属

三輪水防団所属

愛友会会員（福富団地祭りの会）

長良川球友会所属

令和5年度、6年度 少年地域補導委員

岐阜市まちなか博士初級取得

C級プロギングリーダー取得

ホームページ



Instagram



facebook



発行元 すべては未来のために 吉村和也後援会事務所
〒501-2566 岐阜市福富天神前369番地

すべては未来のために **アクション!** 吉村かずや後援会

Action! 見学会の募集！岐阜市「大杉一般廃棄物最終処分場」

岐阜市ファミリーパークより西1.2キロに「大杉一般廃棄物最終処分場」があります。
この施設は焼却灰が毎月およそ800m³の埋め立てられ、現在も日々運用が続いています。
(残余の埋立容量 令和6年5月時点132,553m³ → 令和7年5月時点122,798m³)
このままでは十数年のうちに処分場が満杯となる可能性があり、「ごみの削減」や、「雑がみの分別」など、私たち一人ひとりの行動が、地域の未来を大きく左右します。
そこで今回、この処分場を実際に見学し、現状を知っていただく機会を設けました。

■見学概要

- ・ 日 時：2025年7月23日（水）14:00～15:00（13:50集合）
- ・ 集合場所：大杉一般廃棄物最終処分場（岐阜市山県岩1045）
- ・ 定 員：10名（先着順）
- ・ 申込方法：QRコード「お問い合わせフォーム」よりお申し込みください。
※定員に達し次第、受付を締め切らせていただきます。



申し込み
お問い合わせ
QRコード

なお、当日ご参加いただけない方からのご意見・ご質問もお受けしております。
事前にお寄せいただければ、担当者へお届けいたしますので、どうぞお気軽にご連絡ください。

「見て、知って、動く」一歩を一緒に。

その還元、本当にあなたに届いていますか？

Action! 市民全体に届く政策を—喫茶支援キャンペーンの反省から学ぶ

昨今の物価高騰を受け、岐阜市でも市民生活を支えるため、「キャッシュレス決済へのポイント還元」などの施策が実施されてきました。

しかし、市民の皆様之恩恵が届いているかどうか、改めて見直す必要があると感じています。

たとえば、2023年11月から12月に実施された「PayPay決済による30%還元キャンペーン」は、喫茶文化の振興を目的としたものでした。

ところが、市内の喫茶店532店舗のうち、参加したのは151店舗（約28%）にとどまりました。7割以上が対象外となり、多くの市民が恩恵を受けられなかったのが実情です。

さらに、参加店舗には決済額の約2%の事務手数料が発生しました。特に個人経営のお店にとっては負担が大きかったと思われます。

このキャンペーンには、総決済額3億8,501万円、還元額1億1,250万円、広告・事務経費に550万円以上が費やされました。

しかし、ポイント還元だけでは「岐阜市の喫茶文化の振興」にはつながらず、結果として岐阜市は長年誇っていた「喫茶店における年間消費額日本一」の座も失っています。

こうした多額の予算は、地域全体で使える「地域復興券」や、地域資源を育てる「ブランディング」、すべての市民に等しく届く「給付」などといった形で活用すべきではないでしょうか。

「使い道を変えれば、まちは変わる。」

子育て家庭、高齢者、デジタルに不慣れな方など、誰一人取り残さない支援が重要です。

すべての市民が等しく活用できる仕組みこそ、これからの岐阜市に必要な政策だと考えます。

